

<https://hanno-gakudouclub.com>
hanno.gakudou@ace.ocn.ne.jp



一般社団法人飯能市学童クラブの会
事務局発行
〒357-0021 飯能市双柳 353-172
TEL & FAX 042-972-8490

県連協日帰り研究会



毎年行われている県連協の日帰り研究会が、今年度はオンラインで9月12日(土)に開催されました。テーマは「コロナと学童保育・子どもの視点から考える～with コロナのなかで学童保育の生活づくりをどう進めるか～」。

パネルディスカッションと日本小児科学会理事・感染症対策担当の峯医師による講義の2本立てでした。

パネルディスカッションでは富士見市の指導員と保護者、皆野町の小学校教諭、そして原市場かたくりクラブの河野指導員がパネラーとして「今年3月以降、子どもたちとどう過ごしてきたか」を語り合いました。これまでに例のない事態に直面して、どの立場の人も手さぐりで生活をつくってきたことがわかりました。また保護者会が開催できなかったことで、“これまで”と“これから”のつながりが途切れてしまうのではないかと不安もありました。たくさんの参加者がコロナ禍中での子どもたちへの思いや学童保育の苦勞を共有できました。

峯医師の講義では、8月2日の学習会以後、わかったことなども含めてお話されました。マスク着用、人と人との間隔、換気、手洗い、消毒といった対策や感染の状況などのデータが示されました。新型コロナウイルスだけでなく、熱中症やインフルエンザの対策も必要になります。学校閉鎖で子どもたちが背負うリスク(事故・精神的負荷・生活リズムの変調・学習の遅れなど)や休校のメリット・デメリットを考えるとデメリットの方が大きいのではないかと、という説明を聞き、改めて日常生活の安心・安全を守ることの大切さが身にしみました。それは、子どもたちだけでなく、大人も同じかもしれません。

新型コロナウイルスは変異しやすいウイルスなので今後も注意を怠ってはならない、ということでした。ですから、こういった学習の機会があることがとてもありがたく感じます。子どもたちの健やかな育ちを守り、親の就労等を守るためにも、継続して学び、学べる環境をつくっていきたいと思います。

理事会より



【9月活動報告】

- 9/3 (木) 第5回理事会
- 9/10 (木) クラブ代表者会議
- 9/10 (木) 県連協運営委員会 (欠席)
- 9/11 (金) 理事との懇談会
- 9/19 (土) 県連協代表委員会
- 9/24 (木) 第6回理事会

【討議事項】

- ・理事との懇談会内容確認
- ・保護者会開催方法について
- ・ほいく誌配布対象の拡大(10月より)
- ・コロナ陽性・濃厚接触者の給与の取扱い
- ・学区外ヘルプ・研修参加・講師派遣の可否
- ・就労証明書様式の取り扱いについて
- ・来年度人事について(継続)
- ・運営規約について(継続)



日本の学童ほいく 10月号特集

発達障害を学ぶ

先日参加した学習会で「一人ひとりの子どもから出発し…」と聞きました。この特集でも『『子どもを見る』ことが出発点』(P.29)とありましたので、キーワードのように感じています。神戸大学の赤木和重さんの記事(P.28~33)の一文です。



“物を投げること自体は、よいことではありません。でも、きっと、その子なりの理由があるはず。とは言え、子どもはその理由を上手に話せるとはかぎりません。だからこそ、ていねいに子どもを見ていこうと感じられたのでしょう。そう、出発点は、「子どもを見る」ことにあるのです。”